

無顆粒球症

英語名：Agranulocytosis

同義語：顆粒球減少症、好中球減少症

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

血液中の白血球のうち、体内に入った細菌を殺す重要な働きをする好中球が著しく減ってしまい、細菌に対する抵抗力が弱くなってしまう「^{むかりゅうきゅうしゅう}無顆粒球症」は、医薬品によって引き起こされる場合もあります。

何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「突然の高熱」、「さむけ」、「のどの痛み」

1. ^{むかりゅうきゅうしゅう}無顆粒球症とは？

無顆粒球症とは、血液中の白血球のうち、体内に入った細菌

を殺す重要な働きをする好中球（顆粒球）が著しく減ってしまい、細菌に対する抵抗力が弱くなった状態のことです。^{こうじょうせん}甲状腺機能亢進症^{きのうこうしんしょう}の治療に用いるチアマゾールやプロピルチオウラシル、心筋梗塞など虚血性心疾患の治療の後に血栓^{しんけんこうそく}ができるのを予防するために用いられるチクロピジン塩酸塩、炎症性腸疾患^{えんしょうせいちょうしっかん}や関節リウマチの治療に用いられるサラゾスルファピリジン、統合失調症の治療に用いられるクロザピン、水虫やその他の真菌感染症治療に用いられるテルビナフィン、関節リウマチやウィルソン病の治療に用いるペニシラミンなどその他消化性潰瘍治療薬^{しょうかせいかいようちりょうやく}、解熱消炎鎮痛薬^{げねつしょうえんちんつうやく}、抗不整脈薬などの医薬品の服用によりみられることがあります。

無顆粒球症になると体内に入った細菌を殺すことができなくなるため、かぜのような症状として「突然の高熱」、「のどの痛み」などの感染に伴う症状がみられます。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「突然の高熱」、「さむけ」、「のどの痛み」といった症状が見られた場合で医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

医師、薬剤師から、無顆粒球症がおこる可能性のある医薬品について説明を受けている方は、かぜ症状に気づいた場合でも、薬局でかぜ薬を買って服用するのはさけて、必ず医師を受診して下さい。

この副作用は、特に高齢の女性や腎臓の働きが低下している方に起こる割合が高いと言われています。

無顆粒球症は、原因となる医薬品の服用開始後 2～3 ヶ月以内に発症することが多いため、この期間に症状が出始めたら、

放置せずに、ただちに医療機関を受診し、診察および血液検査を受けることが勧められます。医薬品を中止して適切な治療が行われれば、通常 1～3 週間で、減少していた血球は回復してきます。

その際、詳しい症状の経過とともに、服用しているすべての医薬品に関して、いつからどれを服用しているかを正確に伝えることが大切です。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

※ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

(お問い合わせ先)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話：0120－149－931（フリーダイヤル）[月～金] 9時～17時（祝日・年末年始を除く）